



常呂川森林ふれあい推進センター

新型コロナウイルスに  
負けないぞ！

昼の時間が長く、樹木の緑が映える良い季節となり、山歩きやハイキングが益々楽しみになります。一方、今年は、新型コロナウイルスの影響を受けて、当センターのイベント（行事）等についても中止や延期が余儀なくされています。当面、無理のない範囲で感染の予防対策を遵守するとともに、今後のイベント実施は様々に工夫しながら進めようと考えております。

職員手作りの  
「樹名板」作成・設置

今回は、当センターで組んだ「樹名板」についてご紹介させていただきます。

昨年「オホーツクの森」の「森の家」周辺及び裏山の平安遊歩道に職員手作りの「樹名板」を作成・設置しました。（約40種）



樹名板の記載例



林内に設置した樹名板

限られたエリアの中で標本木を探し、決めるのに非常に苦慮しました。

また樹名板、内容についてもセンター内で何度も打ち合わせを行い、木の名前だけでなく、幹や葉の特徴、用途、名前の由来などを記載したので、「オホーツクの森」の散策を更に楽しんでいただけるのではと期待しています。

『ネイパル北見』  
「オホーツクの森」を下見

今後、この樹名板を活用したイベント（樹木の勉強会や樹木博士など）も検討しています。また、樹木の学習として、特に、若手職員や経験の浅い森林官等を対象とした職場内研修での活用も考えているところです。

『ネイパル北見』（北海道青少年体験活動支援施設 北見市常呂町栄浦）から、小学生を対象に森林の役割等を学ぶために、「オホーツクの森」を使用したことの要望があり、6月

10日に現地を案内しました。



魅力いっぱいのコースを選定中

下見では、網走市民の農地や生活用水に使用されている卯原内川源流部の水源、森林の移り変わりを支える倒木更新等の箇所、自然の営みを示す原始的なエゾマツ・アカエゾマツ・ハルニシ等の巨樹・巨木、動物の棲みかとなる樹洞、キツツキの食痕、ヒグマの爪痕などのポイントを確認し、森林の魅力を身近に感じてもらえるコースを選定しました。

イベント当日は、センターも講師として支援する予定です。